

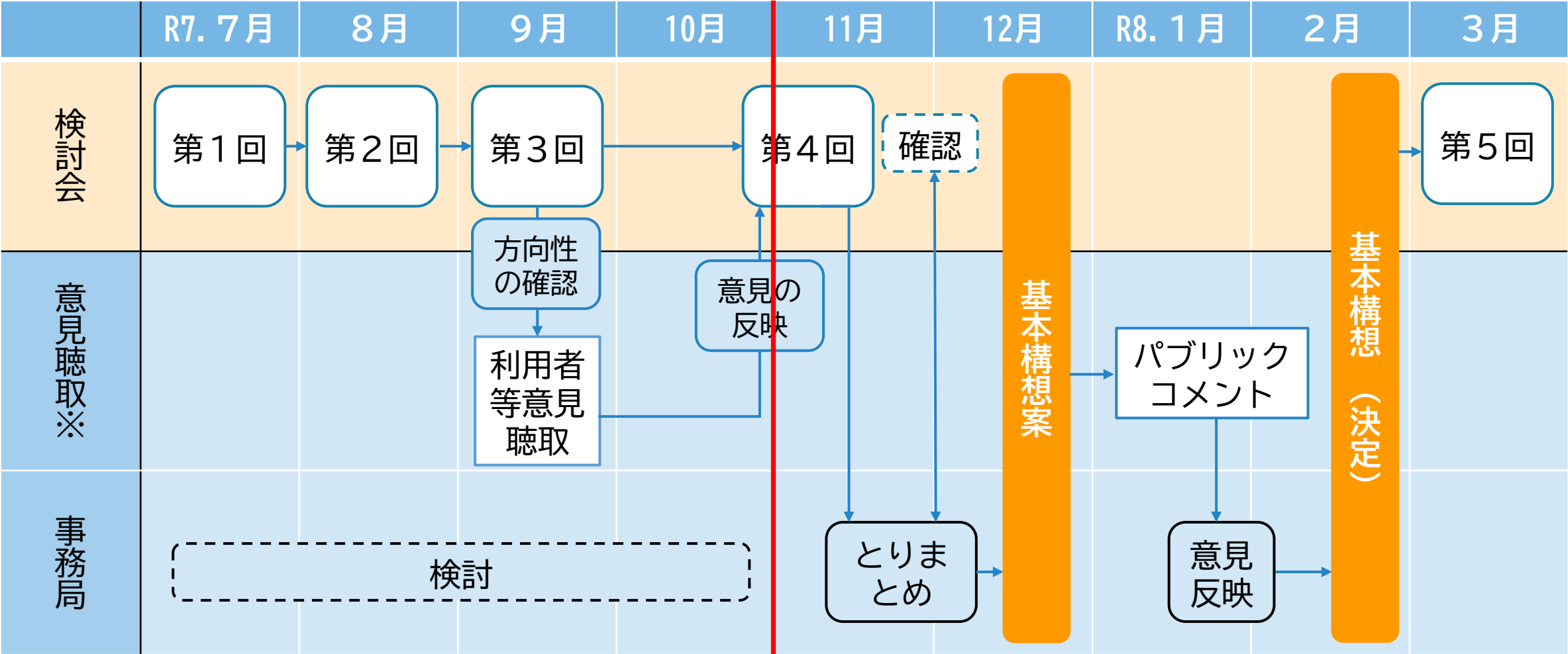
# （仮称）新九段生涯学習館 基本構想検討会

—第4回—

# 検討会の流れの確認

		【第1回】 7月上旬	【第2回】 8月上旬	【第3回】 9月上旬	【第4回】 11月上旬	【確認】 11月中旬	【第5回】 3月
基本構想の主要素	○策定趣旨 ○基本構想の背景	意見出し	まとめ			基本構想案の確認	パブコメ結果・基本構想報告
	○めざす姿						
	○基本方針		意見出し	まとめ			
	○導入機能			たたき	まとめ		
	○施設の規模						
	○今後の取組み			意見出し			

▶ いただいたご意見・ご検討を踏まえ、委員長及び事務局にて最終的なとりまとめを行いご確認いただきます。



※本検討会では、第3回までに基本構想の構成要素をすべて検討した後、区民や利用者の皆様にも導入機能や規模についてご意見をお伺いし、第4回検討会にてフィードバックすることを予定しています。第4回検討会では、これらの意見も含め検討することを予定しています。

# 1 (仮称) 新九段生涯学習館の めざす姿・基本方針

第2回検討会でのご意見を踏まえ、めざす姿案①を軸に作成しました。

多世代の交流を通じ、学び合いが広がり、文化を継承しながら地域がいっそう豊かになっていくイメージ案

めざす姿 案①	学び、つながり、未来へ 「 <u>九段</u> から始まる学びのサードプレイス」
めざす姿 案①'	学び、つながり、未来へ 「 <u>千代田</u> から始まる学びのサードプレイス」

※サードプレイス：自宅や職場とは異なる、居心地の良い「第三の場所」

## 案①' ポイント

- 「九段」から「千代田」に変更し、地域の限定をしない案

# 第3回検討会での委員意見から導き出されたポイント

## ■テーマ1

### (仮称)新九段生涯学習館のめざす姿について

- 施設が九段にあることを分かりやすくするため、めざす姿か、施設名称のいずれかに「九段」を含めることが望ましい。
- 「九段」を基点とすることで「ここから始まる」「ここからつながる」「ここから未来へ」という発想を示して、地域を限定しない広がりを持たせることができる。
- 「千代田区」というと特定のイメージが強い印象があるが、「九段」はそれぞれの人が持つ思いやイメージがあり、むしろ広がりがある。
- ほかの施設との差別化のためにも、「九段生涯学習館」は九段にある多様な人が利用できる施設であることを示すべき。

# (仮称) 新九段生涯学習館のめざす姿

第3回検討会でのご意見を踏まえ、めざす姿を以下のとおりとします。

めざす姿	学び、つながり、未来へ 「九段から始まる学びのサードプレイス」
------	------------------------------------

※サードプレイス：自宅や職場とは異なる、居心地の良い「第三の場所」



①から④までの案については、第2回検討会で頂いた意見を反映し、第3回検討会でお示ししたところ  
です。「過去→現在→未来の縦のつながり」を示した5つ目の基本方針についてご議論いただきました。

## 基本方針（案）

①

多様な人々が交わり、日常に開かれた、居心地のよい交流空間をつくります。

【多世代、多様な人、場づくり、交流空間、談話・休憩・飲食、若者、子ども】

②

生涯を通じて自分らしく学び続け、地域や社会とつながる“活動の場”を提供します。

【個人・社会のウェルビーイング向上、マルチステージ型人生、コミュニティ、発信発表、在勤者】

③

変化する社会に対応し、学びや挑戦を生み出す、柔軟で持続可能な施設とします。

【デジタル技術、多様なニーズにこたえる可変性ある空間設計、九段ならではの魅力を高める】

④

誰もが安心して、気持ちよく利用できる、安全で快適な施設とします。

【運営・サービス、バリアフリー、ユニバーサルデザイン】

⑤

※「過去→現在→未来の縦のつながり」を示した基本方針を検討

【学びの継承・連続性、歴史・地域性、「場」に根差した学び、過去→現在→未来の縦のつながり】

「過去→現在→未来の縦のつながり」を示した5つ目の基本方針について、3つの案をご提示しました。

基本方針⑤（案）	
基本方針⑤ A案	歴史と文化に根ざし、世代を超えて学びが息づく場をつくります。
基本方針⑤ B案	千代田の歩みを学びに変え、世代を超えて知がつながる場を目指します。
基本方針⑤ C案	歴史や文化を尊重し、世代を超えて学習と経験を継承できる“学びの架け橋”を目指します。

【学びの継承・連続性、歴史・地域性、「場」に根差した学び、過去→現在→未来の縦のつながり】

# 第3回検討会での委員意見から導き出されたポイント

## ■テーマ2

### (仮称)新九段生涯学習館の基本方針について

#### 基本方針⑤に関する意見【基本方針⑤A案:歴史と文化に根ざし、世代を超えて学びが息づく場をつくります。】

- 千代田区から文化を発信し、歴史を「世代を超えて」つなぐという流れが良い。
- 「学びが息づく場」という表現が良い。継承ではなく、時代を超えて一緒に進むイメージを与え、その場で同時に学び合う新しい言葉として魅力的である。
- A案の冒頭に「千代田の」を加えた案も考えられる。

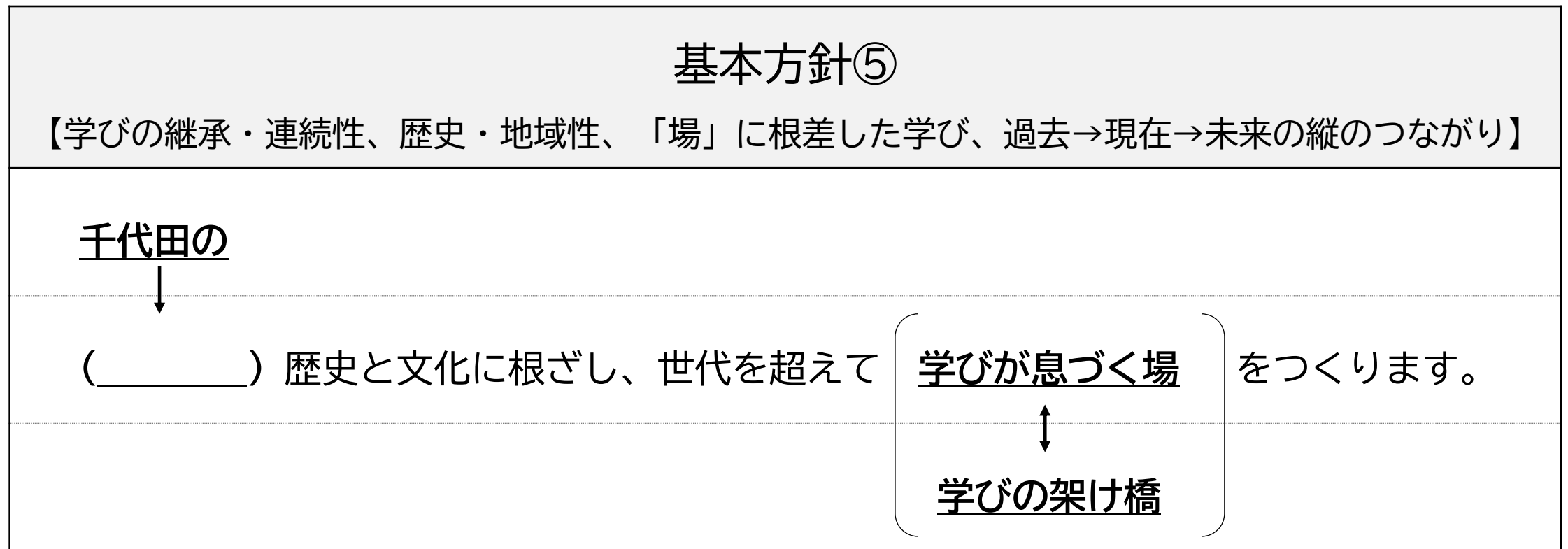


「歴史と文化に根ざし、世代を超えて学びが息づく場をつくります。」

を軸に基本方針⑤を検討します。

# (仮称) 新九段生涯学習館の基本方針⑤

ご意見を踏まえ、基本方針⑤の修正方法の案を以下にお示します。



# (仮称) 新九段生涯学習館の基本方針

## ■テーマ

(仮称)新九段生涯学習館の基本方針について

(仮称)新九段生涯学習館の基本方針⑤の修正方法について、ご議論ください。

## 2 (仮称) 新九段生涯学習館の 導入機能と規模

# 第3回検討会での意見から導き出されたポイント①

## ■テーマ

(仮称)新九段生涯学習館の導入機能と規模

### 会議室・集会室

- 30名規模でグループワークをすると、一番大きい部屋でも手狭である。
- パーテーションでの間仕切りでは、音楽系団体の利用やマイクを使った講座の際に、音漏れの懸念がある。

### 和室

- 茶道利用を考えると、各室に床の間や水場があると良い。
- 31畳は茶道利用では広い。ヨガなど靴を脱ぐ運動系団体と利用が重なり、場所確保に課題がある。
- 40m<sup>2</sup> 2 部屋の場合は、大きな団体の利用のために連結可能な構造が望ましい。
- 連結する仕様では風情が失われる。和室らしい要素を残すべきである。
- 部屋が離れていれば問題ないが、隣で楽器演奏などがあるとパーテーションでは防音が不十分。

# 第3回検討会での意見から導き出されたポイント②

## ■テーマ

(仮称)新九段生涯学習館の導入機能と規模

### 実習室・作業室

- 実習室・作業室の稼働率は低く、方向性（案）が妥当との意見。

### 運動・音楽室

- 天井高や広さが十分あれば、バスケットやバレー、フットサルなど幅広いスポーツに対応可能となり、汎用性が広がる。
- 舞台付きの運動・音楽室では音楽活動だけでなく、演劇や芝居など多用途での活用が期待される。



# 第3回検討会での意見から導き出されたポイント③

## ■テーマ

(仮称)新九段生涯学習館の導入機能と規模

### ギャラリー

- 人の動きがあるところにギャラリーを設置するには、スペースをしっかりと確保する必要がある。
- 展示スペースは一定の面積を確保すべき。
- 小規模サークルにも発表の機会を広げ、合同展示など多様な活用方法を検討する必要がある。
- 必要な機能だが使っていない時間帯を有効活用できる代替案が必要である。
- 使ってもらうだけでなく、皆の目に触れることが重要。イベント会場として利用するのも良い。
- 120㎡程度のスペースを確保しつつ、交流スペースと一体化する案自体には賛成である。
- 展示物とカフェスペースを組み合わせることで、展示を楽しみながら過ごせる場となり価値が高まる。展示に合わせた配置の工夫で、展示の魅力も引き立つ。

# 第3回検討会での意見から導き出されたポイント③

## ■テーマ

(仮称)新九段生涯学習館の導入機能と規模

### オープンな活動空間

- 時間帯で分けるなどのオープンスペースの管理の工夫は可能だと思う。
- アクティブラーニングが進んでおり、学びのスペースの需要がある。

### その他

- ベビーベッド付きの個室の授乳室が必要。
- 気持ちを落ち着けられる小さな個室があるとよい。

## 座学系の活動 会議室・集会室

### ■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は、大規模・中規模では40～50%で維持傾向、小規模では20～30%台と低いが上昇傾向。
- ・第1学習室を除き、「狭すぎる」との意見が多い。
- ・ウェブ会議・配信ができる設備を求める意見がある。

### ■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・利用者はより広い部屋を優先すること、また料金差も大きくないことから小規模集会室の利用率が低い。
- ・小規模な団体や設立初期の団体がいるので、小規模集会室は必要。

### ■検討会での意見

- ・数が多いが、稼働率の低い部屋は統合・集約が可能。
- ・可動壁の導入で、汎用性を高めることが可能。
- ・グループワークの規模によっては、一番大きい部屋でも手狭である。
- ・パーティションでの間仕切りでは、音楽団体の利用やマイクを使った講座の際に、音漏れの懸念がある。

方向性  
(案)

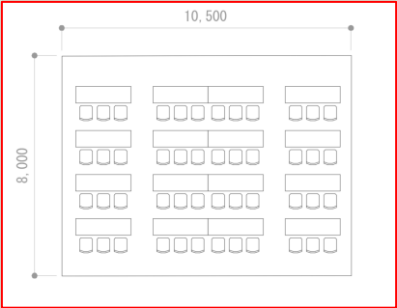
①利用率を踏まえ総面積を削減し、**大規模1室（前回案よりも拡充）**・中規模**4-5室**・小規模2室に再編。

②可動式間仕切りで人数に応じた利用ができるようにする。

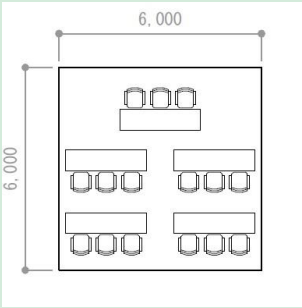
③活動の見える化を図るとともに、明るく開放的な空間とする。使い勝手のよい部屋の形・設えを検討する。**また一部の部屋には防音性能を検討する。**

座学系の活動 会議室・集会室

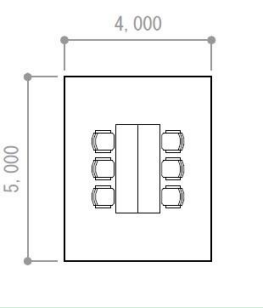
室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
第1学習室	83	45	51.8	2,500
第1集会室	46	33	45.4	1,800
第1会議室	37	14	56.7	1,300
第2学習室	27	15	49.4	1,100
第2集会室	19	12	54.9	900
第3集会室	14	12	27.7	900
第4集会室	14	12	30.0	900
第5集会室	14	10	36.7	900
第6集会室	14	10	33.0	900
第2会議室	28	10	—	—



〈大会議室イメージ〉



〈中会議室イメージ〉



〈小会議室イメージ〉



室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)
大会議室	約8555	4530
中会議室	約35	15
	約35	15
	約35	15
	約35	15
	約35	15
小会議室	約20	10
	約20	10

集約

## 座学系の活動 和室

### ■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は、和室大が約70%で上昇傾向、和室小が50%前後で維持傾向。
- ・和室大は「広すぎる」、和室小は「狭すぎる」との意見が多い。
- ・茶室（炉など）を求める意見がある。

### ■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・利用人数の実態は、和室大は5～10名、和室小は5～8名程度。
- ・着付けは5～6名で活動。和室小または集会室5・6（畳を敷く）を使う。
- ・ストレッチ・体操・ヨガは、活動によって和室大・小を使い分けている。
- ・靴を脱いで活動できる部屋として需要がある。

### ■検討会での意見

- ・和室小は狭く感じるとの声もあるが、実際は活動内容によって変わる。
- ・茶室利用のための設備を求める声がある。
- ・防音性（和室特有の落ち着いた空間）や和室の風情を確保するため、パーテーションによる区切りは望ましくない。

（案）  
方向性

①和室は連結せず、個別に「和室大」を設ける。

和室大は利用実態にあわせフローリング化し軽い運動もしやすい室に転換

②和室小は規模は維持し、機能を更新し利用率の向上を図る。

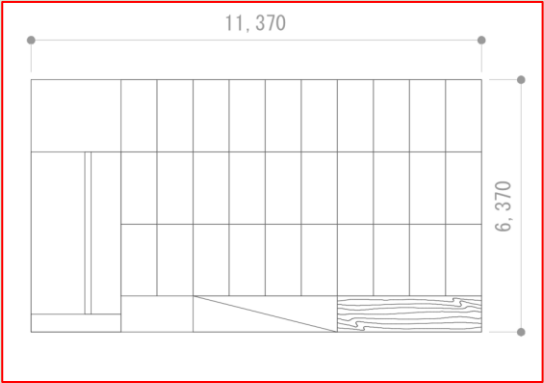
座学系の活動 和室

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
和室(大)	74	32	69.4	1,900
和室(小)	37	16	53.2	1,100

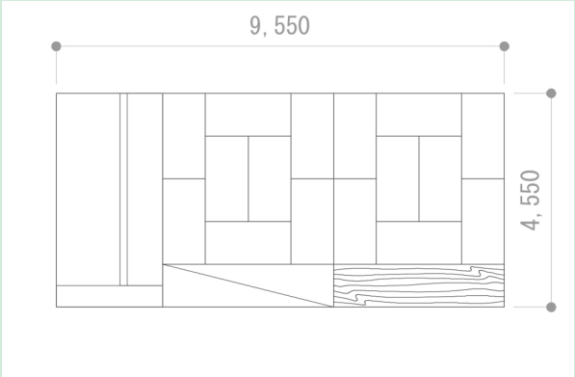


室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)
和室(大)	約7540	3015
和室(小)	約40	15

同等



〈和室(大) イメージ〉



〈和室(小) イメージ〉

## 座学系の活動 実習室・作業室

### ■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は20%台と低く、下降傾向。
- ・「広すぎる」との意見が多い。
- ・創作系の団体の活動人数は10人未満、多くて14人程度の傾向。

### ■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・陶芸の利用団体は現在6団体（3～5名、70代）。高齢化が進み、この5～6年で活動を中止した団体が1～2団体ある一方、新規登録団体はない状況。
- ・実情を考えると実習室の規模は必要以上に大きい。狭くすれば利用料が割安になり、多目的の利用を促すことができるのではないか。

### ■検討会での意見

- ・メンバー数が少ない場合、現状の広さはゆとりを持った使用が可能。電気炉が2台で便利。
- ・作業室はある程度のスペースがないと使いづらくなる。
- ・作品乾燥スペースがやや不足しており、改善の余地あり。

（案）  
方向性

①陶芸専用の部屋から創作活動全般で多目的利用できる部屋への転換で利用率向上を図る。

②規模は縮小(40名規模⇒15名規模)

座学系の活動 実習室・作業室

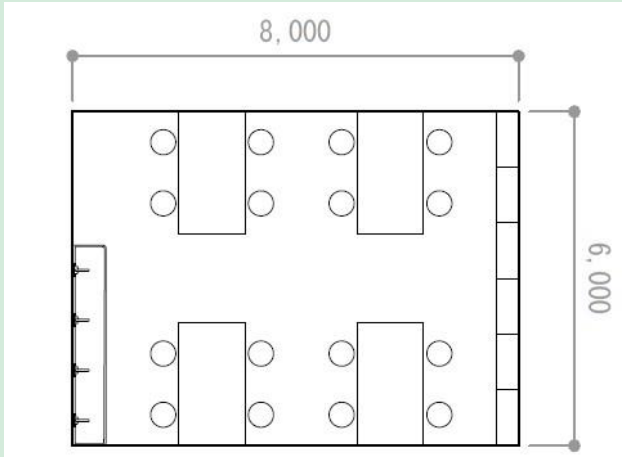
室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)	利用率 (%)	利用料 金(円)
実習室、準備室、電 気炉置場	133	40	25.4	3,600



室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)
創作室	約50	15
準備室	約30	-

縮小

拡充



〈創作室イメージ〉



## 運動系・音楽系の活動 運動・音楽室

### ■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は、いずれの部屋も80%を超えて上昇傾向、曜日、時間帯によっては予約が取れない状況と推察される。
- ・音を出す活動を行う団体で「予約が取りづらい」ことを理由に他施設を利用するケースが多い。
- ・大きな鏡、ダンス仕様の床、高い天井、卓球ができる環境を求める意見。

### ■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・多目的室はダンス、音楽・視聴覚室は合唱や楽器練習、レクホールは楽器練習やダンスの利用が多い。
- ・レクホールの広さでしか活動のできない団体がある。
- ・少人数で楽器練習ができる防音の部屋のニーズは高い。

### ■検討会での意見

- ・利用率が非常に高いため、拡張したり幅広いスポーツに対応できることが望ましい。
- ・音楽系の要望も多い。大・中・小の複数の部屋構成や小規模でも防音室であればパート練習ができ利用効率が向上すると考えられ、設備面も利用率に寄与する。
- ・ダンス利用も多いため、固定の鏡の設置が望ましい。

方向性  
(案)

①利用率を踏まえ、総面積の割合を増やし、大部屋2室・中部屋2室・小部屋（スタジオ）2室に再編。

②音楽でも運動でも利用できるような設えとする（楽器練習をメインとする部屋は防音、それ以外は吸音とすることを想定）。

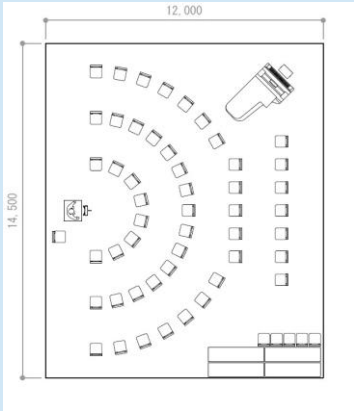
運動系・音楽系の活動 運動・音楽室

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)	利用率 (%)	利用料 金(円)
レクホール	163	100	91.2	3,900
音楽・視聴覚室	126	50	85.9	3,100
多目的室	70	35	83.9	2,200

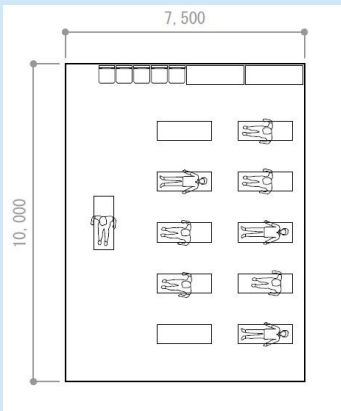


室名	室面積 (㎡)	最大 使用人数 (人)
運動音楽室大(舞台付き)	約200	100
運動音楽室大	約180	100
運動音楽室小	約85	35
	約85	35
スタジオ	約20	6
スタジオ	約20	6

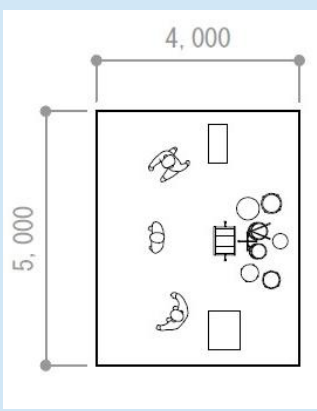
拡充



〈運動音楽室大イメージ〉



〈運動音楽室小イメージ〉



〈スタジオイメージ〉

## 成果共有 展示・発表

### ■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・ ギャラリーの利用率は40%台で下降傾向。
- ・ 広いスペースだが、展示やイベントがない場合は使用されていない。

### ■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・ —

### ■検討会での意見

- ・ 高齢利用者でも扱いやすいよう、展示物の設置高さを手の届く範囲に調整希望。
- ・ 出品準備用の作業スペースを引き続き確保してほしい。
- ・ サークルごとに必要な広さは異なるが、可変パーティションで調整可能な現行の広さは概ね適切
- ・ 機能を兼ねる例としても、自然と目に入る場所に展示することで、人々が交わる機会を増やせる。
- ・ 120㎡程度のスペースを確保しつつ、交流スペースと一体化する案自体には賛成である。
- ・ 展示物とカフェスペースを組み合わせることで、展示を楽しみながら過ごせる場となり価値が高まる。

方向性  
(案)

展示機能：人々が交わる機会を増やせるようロビーの一部として導入。展示だけでなく、生涯学習のきっかけづくりを目的としたイベントを開催。様々な利用者の目に触れ、施設の活気や賑わいを感じられる場所にする。展示やイベントのないときは、待合や休憩に自由に使えるスペースとする。

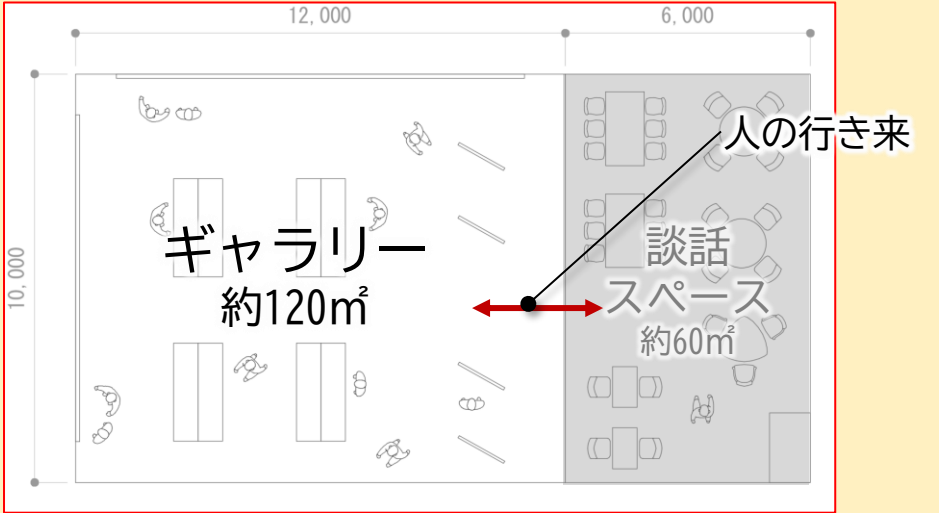
成果共有 展示

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
九段ギャラリー	145	50	46.1	3,000 (全日)



室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)
ギャラリー	約120	-

同等



〈ギャラリーイメージ〉

## 交流促進 オープンな活動空間、談話・休憩・飲食

### ■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・ 休憩スペース、待合スペース、カフェを求める意見（早めに着いたときに待つ場所、飲食できる場所、休憩できる場所など）。
- ・ オープンスペース、フリースペース、打ち合わせできる場所を求める意見。自習室・図書室を求める意見。
- ・ 交流スペースを求める意見（子供が過ごせる場所、多世代が集まれる場、新しい仲間との出会い、又、ゆったりしたロビー、学びたい人の交流の場など）。

### ■検討会での意見

- ・ 現状では休憩・待合スペース不足。カフェスペースなど、くつろげる環境の整備が必要。
- ・ フリースペースだけでは管理上問題があるため、有料カフェや秩序を保つ工夫が望ましい。
- ・ 時間帯で分けるなどのオープンスペースの管理の工夫は可能だと思う。
- ・ アクティブラーニングが進んでおり、学びのスペースの需要がある。

方向性  
(案)

①オープンな活動空間：打合せ、自習などの利用を想定。生涯学習活動が個室で完結するのではなく新たな出会いやつながり、活動が生まれることに期待。個人やグループで利用できるスペースの導入を検討。管理運営の工夫が必要。

②談話・休憩・飲食：エントランスロビーの一角に休憩スペースを設置。活動前後の待ち合わせや飲食機能などについて導入を検討。

展示機能と一体的に整備し、面積を共有することで、状況に応じて面積を増減させ、柔軟なスペース活用を図る。

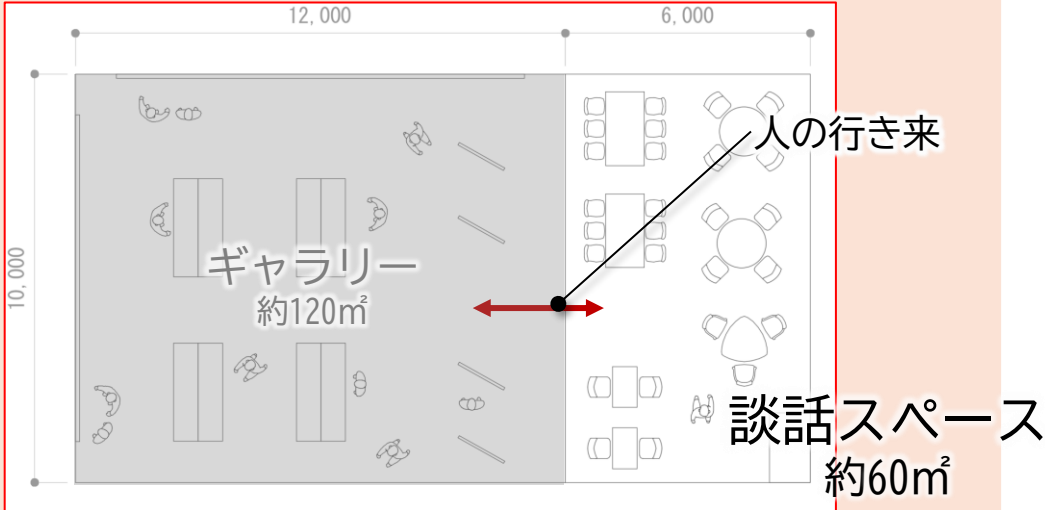
交流促進    オープンな活動空間、談話・休憩・飲食

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
-	-	-	-	-

方向性  
(案)

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)
オープンな活動空間 談話スペース	約60	20
談話・休憩・飲食	約60	20

新規



〈談話スペースイメージ〉

# 現在の交流エリアについて

## ■九段ギャラリー

- 面積：145m<sup>2</sup>
- 場所：2階
- 利用率（R6）：46.1%
- 未利用時は暗く、貸出時のみ利用されている



## 課題

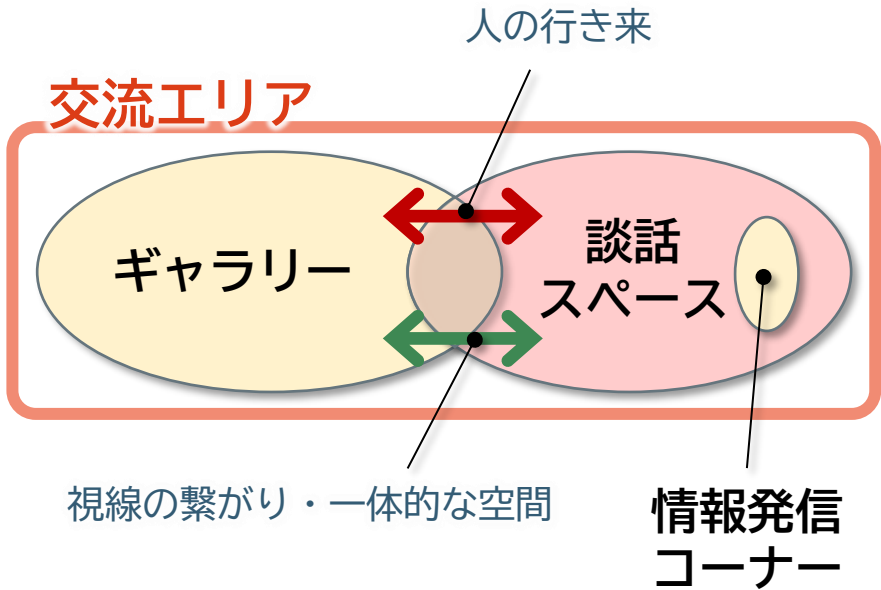
- 気軽な立ち寄りができない、初めての人が分かりづらい、人目に触れにくい配置・動線
- 比較的大きな空間が有効利用されていない。（利用率40%台）
- 未利用時に価値を生み出せていない。



## 課題への対応

- 人目に触れにくい配置・動線 ⇒ 人目に触れやすいエントランスや談話スペース付近に配置
  - 比較的大きな空間が有効利用されていない。（利用率40%台）⇒ 利用の幅を広げる
  - 未利用時に価値を生み出せていない。⇒ 未利用時に談話スペースとして活用
- 
- 「展示 + 談話スペース」を一体的に交流エリアとして整備
  - ギャラリーと情報発信コーナーの役割

ギャラリー	情報発信コーナー
<ul style="list-style-type: none"><li>談話スペースに隣接した多くの人の目に留まる、展示イベントのための空間</li><li>未利用時は談話スペースとして活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>談話スペース内に設けた、常設の空間</li><li>各団体の活動内容に関する情報発信をして、団体同士の交流や新たな生涯学習に触れる機会を作る。</li></ul>

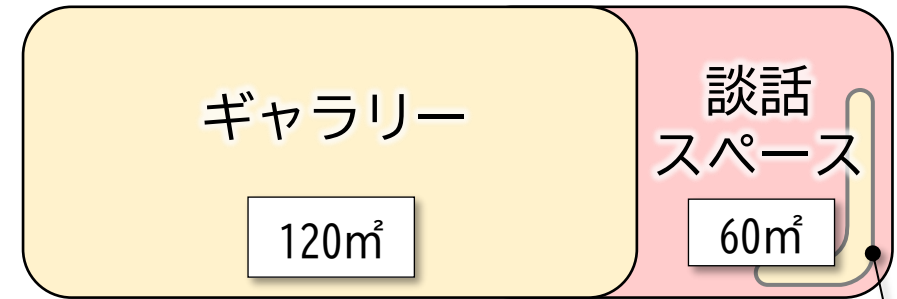




# ギャラリー・展示スペース・談話スペースの使い分け

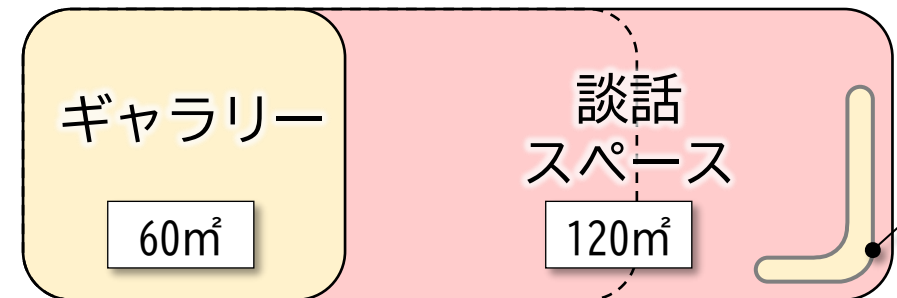
## ■ ギャラリー利用があるとき(最大サイズ)

ギャラリーを最大サイズで確保。談話スペースが隣接することで、展示に触れる人が増え、作品が多くの人目に留まります。



## ■ ギャラリー利用があるとき(半分サイズ)

ギャラリーを半分で利用して、出展団体の規模に応じて柔軟に運用。残りは談話スペースとして活用し、展示と談話を両立します。



## ■ ギャラリー利用がないとき

展示イベントがないときは、ギャラリーを含めてより広く談話スペースを確保。常設の情報発信コーナーによって、活動内容の情報発信の場は確保されています。



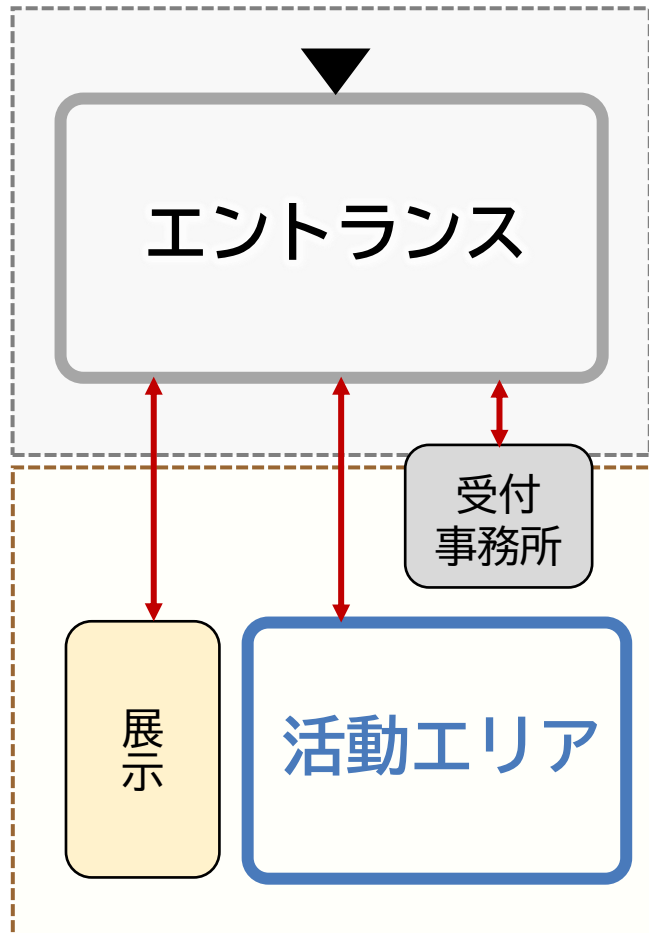
# 交流エリアの動線

## 凡例

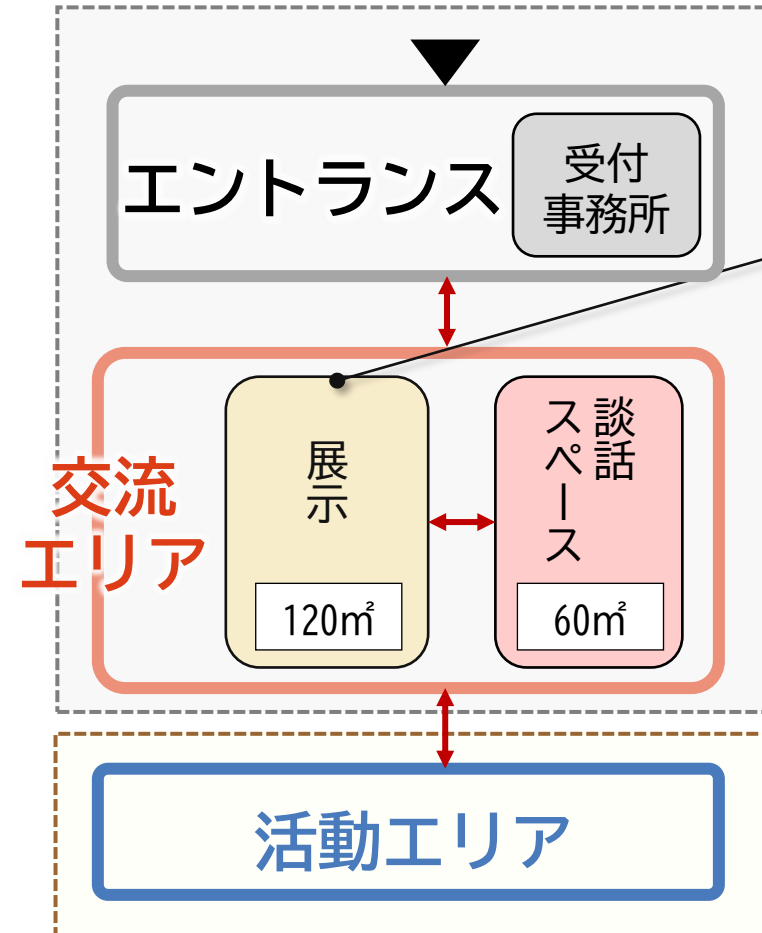
- ▶ 出入口
- ↔ 利用者の主な動線
- ↔ 管理者の主な動線

管理諸室を経由して交流エリアへと繋がる動線とし、セキュリティに配慮します。  
また、交流エリアを介した活動エリアへの動線とすることで、自然な交流を促します。

## ■現施設



## ■新施設



展示がない時は、  
談話スペースとして  
活用します。

## ■秩序を保つ方策

長時間利用やセキュリティ面の対策など、交流スペース全体の秩序を保つ方策が必要です。

## ■貸出方法の見直し

現施設の九段ギャラリーは、1室単位での貸出を基本としており、部分的な貸出や未使用時のスペース活用を前提とした運営ではありません。運営方法の見直しが必要となる可能性があります。



基本構想では、必要機能（ギャラリー、談話スペース）を中心に検討を進め、機能を実現させていくための運営面（セキュリティ、ルール等）については、今後検討を行っていきます。

# 3 利用者意見聴取について

# 利用者意見聴取について

## 目的

- 現在の活動を通して、今後どのように(仮称)新九段生涯学習館を利用したいか、利用者の意見を募る。
- 機能と規模について利用者のニーズを把握し、検討会に報告する。

# 利用者意見聴取の概要

利用者意見聴取の概要は以下のとおりである。

日 時	令和7年10月16日(木) 午後6:30～午後8:20
参加人数	23名(A～D班の4班に班分けして実施)
参加者の活動ジャンル	語学・文化研究・時事社会・朗読・文芸・古文書 (1名) 絵画 (2名) 手芸 (3名) 伝統文化・伝統芸能 (3名) 健康体操・ダンス (8名) 楽器演奏・うた (5名) 武道 (1名)
主な内容	テーマ1「活動エリア」、テーマ2「交流エリア」についてワークショップ形式で意見交換を実施

# 利用者意見聴取について 実施内容①

## テーマ1 活動エリアについて

活動エリアに必要な機能、空間、使い方について考える  
ご自身の活動団体で利用することを前提に考えてみてください。

使い方  
(何をする?)

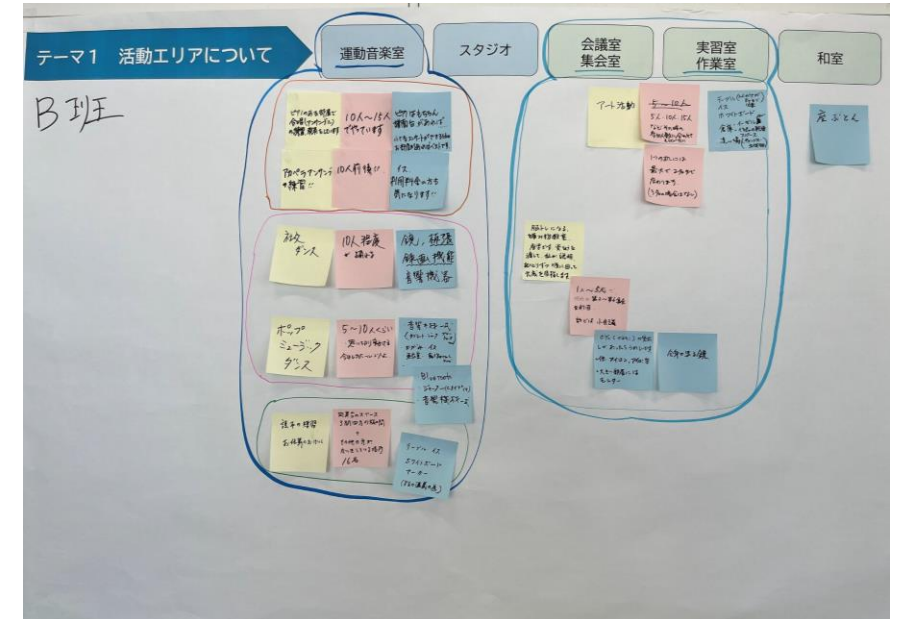
(仮称)新九段生涯学習館の諸室で何をしますか?  
どのような使い方をしますか?  
→ 黄色のふせんに記入

スペースの  
規模(広さ)

何人で利用しますか?  
どのくらいの広さが必要ですか?  
→ ピンクのふせんに記入

必要な  
仕様・設備

諸室内にあったら良いなと思う  
備品や設備はありますか?  
→ 水色のふせんに記入



B班のテーマ1「活動エリア」に関する意見



意見交換の様子1



発表の様子

## テーマ2 交流エリアについて

交流エリアにこんな施設や機能があったら良いと思うもの

使い方  
(何をする?)

どのような使い方をしたいですか?

→ 黄色のふせんに記入

スペースの  
規模 (広さ)

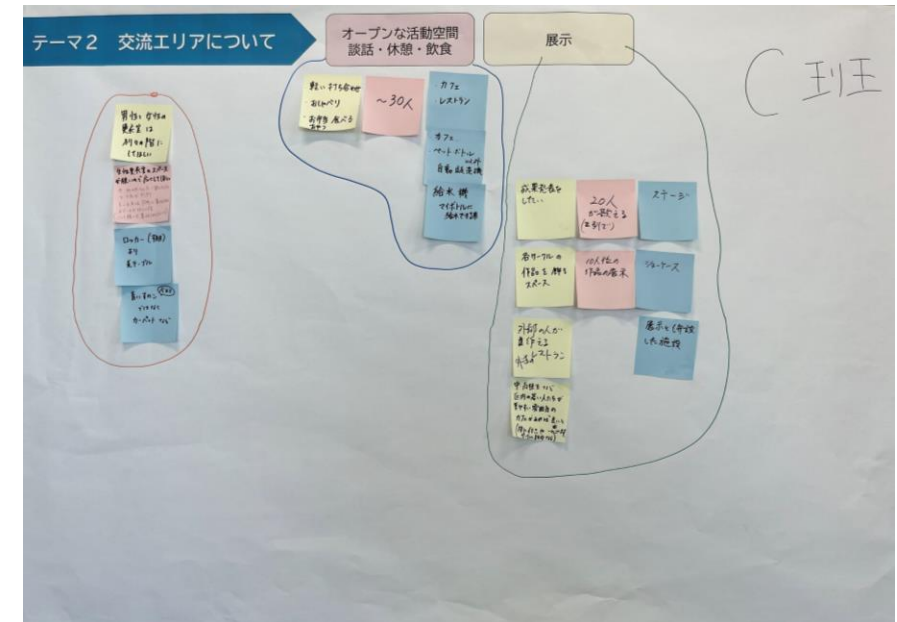
どのくらいの広さが必要ですか?

→ ピンクのふせんに記入

必要な  
仕様・設備

交流エリアにあったら良いなと思う  
備品や設備はありますか?

→ 水色のふせんに記入



C 班のテーマ2「交流エリア」に関する意見



意見交換の様子2



意見交換の様子3



# 利用者意見聴取について 諸室の機能と規模のまとめ

## テーマ1 活動エリア

- 音楽・運動に関する活動では、検討案の使い方、広さで問題ないことがわかった。

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人数 (人)	使い方	広さ(人数)
運動音楽室大(舞台付き)	約200	100	ヘルマンハープ発表	演奏者・聴衆100人
			謡本の練習、お仕舞のおけいこ	能舞台のスペース+待機者16人
運動音楽室大	約180	100	コーラス	30~40人
			ポップミュージックダンス	5~10人
			バレエレッスン	10~15人
			合唱	10~15人
運動音楽室小	約85	35	アカペラアンサンブル	10人前後
			社交ダンス	10人程度
			合気道	2~10人
			謡本の練習、お仕舞のおけいこ	能舞台のスペース+待機者16人
			歌の練習	20人
			ソーシャルダンス 練習/パーティ	8人/20人
			フラダンス	15人程度
			ウクレレ	10人程度
			アカペラ・ジャズ	記載なし
スタジオ	約20	6	アカペラ・ジャズ	記載なし

# 利用者意見聴取について 諸室の機能と規模のまとめ

- 会議室・集会室では、中・小会議室を多目的に利用する意見が多く、活動内容が同じでも活動人数によっては大会議室を利用したいという意見があった。

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人数 (人)	使い方	広さ(人数)
大会議室	約85	45	ヘルマンハープの演奏、練習	20人
			チェアヨガ	10～15人
			アート活動	15人
中会議室	約35	15	アーユルヴェーダ	10～15人
			アート活動	5～10人
			刺繍全般	10人程度
			書道	10～15人
			手芸	4～6人
小会議室	約20	10	おしゃべり、フリートーク+読書会	10人
			編み物教室	1～5人

# 利用者意見聴取について 諸室の機能と規模のまとめ

- 実習室・作業室は、絵画制作や手芸活動での創作室として利用することも想定した意見があった。

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人数 (人)	使い方	広さ(人数)
創作室	約50	15	絵画制作	15人程度
			刺繍全般	記載なし
準備室	約30	-		

- 和室は、茶道だけでなくヨガやアーユルヴェーダの活動が行われていることが分かった。

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人数 (人)	使い方	広さ(人数)
和室(大)	約75 (30畳)	30	ヨガ	30畳 10~15人
			らくらくヨガ	30畳 10人
和室(小)	約40 (16畳)	15	アーユルヴェーダ	10~15人
			ヨガ	8人
			茶道	8畳

# 利用者意見聴取について 諸室の機能と規模のまとめ

## テーマ2 交流エリア

- 談話スペースは休憩・待合の場として5～30人程度での利用を求める意見が複数あった。
- 展示スペースは、小規模利用や常設展示を希望する意見、既存のギャラリーより大きなスペースを求める意見があった。

室名	室面積 (㎡)	最大使用人数 (人)	使い方	広さ(人数)
談話スペース	約60	20	生涯学習に関する情報、資料など収集	オープンなスペース
			待ち合わせ、おしゃべり、待機スペース	5～30人
			自由に話せる英語、仏語レッスン	1テーブル3人
			カフェ等、休憩場所、飲食可の場所	10～30人
			フリースペース	150㎡
			展示と隣接したオープンスペース	—
展示スペース	約120	—	文化祭の展示を紹介する展示	既存のギャラリーの倍以上の広さ
			常設の展示	記載なし
			ミニ作品展示	記載なし
			サークルのチラシ・ポスターのコーナー	記載なし
			成果発表	20人が歌える(2列で)
			各サークルの作品を飾るスペース	10人位の作品の展示
			複数団体の同時展示 大きさや用途に応じて区切れる展示室 絵画やキルトなどの作品展	既存のギャラリー以上の広さ

## 寄せられた意見：テーマ1 活動エリア

### 運動音楽室

- 音楽（歌や楽器演奏等）、運動（ダンス、フラダンス、バレエ等）、能や武道で利用している。
- 音楽の30～40人、ダンス5～10人やバレエ10～15人で利用したい
- 5～15人前後の少人数から40人程度の大人数まで、様々な人数での利用がある。
- マイクを使う音楽関連の活動では、スタジオでの活動を望む声があった。
- 練習や演奏会の様子をYouTubeで配信したいという意見があった。

### 会議室・集会室

- 楽器演奏、ヨガ、絵画、書道、手芸、読書やアーユルヴェーダ等、多様な活動で利用されている。
- 手芸系の活動では、人数に応じて作業スペースが広く必要だという意見があった。

## 寄せられた意見：テーマ1 活動エリア

### 実習室・作業室

- 絵画制作の活動では、イーゼルが置ければ15人程度で利用したいという意見があった。
- ミシンのスペースがあったら手芸活動で10人程度で利用したいという意見があった。

### 和室

- ヨガ、アーユルヴェーダ、茶道の活動で利用されている。
- ヨガの活動では、10～15人の利用で30畳は必要という意見があった。
- 茶道は、8畳ほどの広さが必要という意見があった。

### その他

- 茶道以外で下足できない活動（ヨガや武道など）の諸室、音が出る活動を行うために防音された諸室、諸室ゾーニングの工夫を求める等の意見があった。

## 寄せられた意見：テーマ2 交流エリア

### オープンな活動空間、談話・休憩・飲食

- 自由に使うことができるスペースや休憩スペース、カフェスペース、体験スペースやフリーでイベントを行うスペースなどの使い方や、生涯学習に関する情報・資料を収集できるスペースの提案があった。
- 待機したり休憩するスペースは広めに確保し、座れる席也多めにしてほしいという意見もあった。
- 利用者のみでなく、広く区民に利用されることを望む意見があった。
- カフェやレストランは経営的に無理ではないかという意見があった。

### 展示

- 常設展示、ミニ作品展示、複数団体の作品の同時展示等の提案があった。
- スペースを区切って小さく利用したいという意見の一方で、既存のギャラリーよりも広いスペースを希望する意見もあった。
- 活動の成果発表を行う場として活用したいという意見があった。

## まとめ

- 利用者の方の使い方や広さに関するご意見は、現在検討している内容で対応可能であることが確認できた。
- 現在検討している基本方針（案）は素晴らしいとする意見があった。